

3 「豊かな心」を育む道徳教育

全教育活動を通じた道徳教育の充実に向けて、各学校では重点項目と各教科等との関連を意識しながら、学校行事や地域のボランティア活動等多様な体験活動や実践活動を通して児童生徒の豊かな心の育成を図っています。また、教師の明確な指導観に基づき、道徳科の特質を考慮した学習過程となるよう、発問や問い返し等の工夫について研修や協議を行うなど、全校体制で道徳科の授業の質の向上に努めています。

道徳教育は、**道徳科を要**として学校の**教育活動全体**を通じて行うものである。指導に当たっては、児童生徒と教師の確かな**信頼関係**や児童生徒相互の**温かい人間関係を基盤**とし、**体験活動や実践活動**等による人・社会・自然等との豊かな関わりを重視して展開することが大切である。また、家庭や地域社会と連携を図りながら、豊かな人間性や社会性を育むことが求められる。

学校全体及び各学年段階における重点的指導

- 校長の方針の下、**道徳教育推進教師を中心に**、道徳教育の全体計画等を作成し、見直しを図りながら、道徳教育を推進すること。その際、児童生徒の発達段階や特性等を踏まえ、学校や家庭、地域社会の実態に応じて、学校としての重点目標を明確にし、指導内容の重点化を図ること。特に、**自他の生命尊重の精神・善悪の判断力・規範意識・人を思いやる豊かな心**を育むことを重視し、心に響く指導を工夫すること。また、道徳科においても特に必要と思われる内容項目に関して重点的に指導すること。

(参考資料) ③ - ①②③

各教科等における道徳教育の充実

- 各教科等における道徳教育の指導については、道徳教育の全体計画に基づき、各教科等の目標と道徳教育との関連を明確にしながらい意図的に行うこと。その際、全体計画に、各教科等における道徳教育に関わる指導の内容や時期等を整理したものを別葉にして加え、活用すること。例えば、自校の重点項目を見やすく示し、教材との関連性を明確にするなどの工夫が考えられる。

道徳科の指導と評価の充実

- 道徳科は、**道徳教育の要**としての役割を果たすことができるよう、他の教育活動との関連を明確にした上で**計画的、発展的な指導**を行うこと。特に、各教科等における道徳教育としては取り扱う機会が十分でない道徳的価値に関する指導を**補う**ことや、児童生徒や学校の実態等を踏まえて指導をより一層**深める**こと、相互の関連を**捉え直したり発展させたり**することに留意すること。

- 道徳科のねらいに迫ることができるよう、道徳科の特質を考慮して**授業の質の向上**に努めること。特に、児童生徒の多様な発言やつぶやきを受け止め、立ち止まり、広げたり、さらに深く問いかけたりするなど、教師が**児童生徒同士の考えをつなぐ役割**を意識した**話し合い**を重視すること。
- 児童生徒の**学習状況**や道徳性に係る**成長の様子**を**継続的に把握**して評価し、児童生徒を認め励ましたり、自らの指導に生かしたりするよう努めること。その際、児童生徒の授業中の様子や発言、記述等を基に記録を蓄積すること。

ねらいに迫る道徳科の授業づくりの例

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己(人間として)の生き方についての考えを深めることができるよう以下の点について考える。

- ①教師の明確な指導観に基づき、**本時のねらい**を設定する。
- ②本時のねらいに迫るための**中心発問**を考え、次にそれを生かすための前後の発問(基本発問)を考える。
- ③**道徳科の特質を考慮した学習過程**となるよう、②で設定した発問を見直しながらい、授業全体の発問の構成を考える。
- ④ねらい、児童生徒の実態等に応じた指導方法を考える。
(話し合い、教材提示、書く活動、演技・動作化、板書等)
- ⑤問題意識を持たせる**導入**を考える。
- ⑥今後の発展につながる**終末**を考える。
- ⑦**評価の視点**と方法を考える。
(多面的・多角的な見方へ、自分自身との関わり等)
※児童生徒の反応を予想しながら、授業展開を構想する。

「学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」で内容項目について全体像をつかみ、ねらいとする道徳的価値の学年段階・学校段階の系統性を把握し、児童生徒の実態等を考慮する。その上で、教材との関わりから「**児童生徒にどのような心を育てるのか**」を教師自身が自分の言葉で説明できるようにする。

道徳科の特質を考慮した学習過程

- 道徳的諸価値について理解する。
「～は大切なんだ」「～とはこういうことなんだ」などの価値理解
「～は大切でも実現することは難しいことなんだ」などの人間理解
「～についての感じ方、考え方はいろいろあるんだ」などの他者理解
- 自己を見つめる。
「これまでの自分は～についてどうだったのか」などの自己理解
- 物事を(広い視野から)多面的・多角的に考える。
「もし～の立場だったら～だろう」など
- 自己(人間として)の生き方についての考えを深める。
「もっと～であるようになりたい」など

(参考資料) ③ - ④⑤⑥

家庭や地域社会との連携の推進

- あいさつ運動やボランティア活動、地域の方々との交流を推進したり、授業公開や学年・学級だより等を通して学校の取組を発信したりするなど、**家庭や地域社会と連携**を図った道徳教育の充実に努めること。



道徳教育に関する参考資料へのQRコード